

土木コンクリート構造物の品質確保における特記仕様書

(レディーミクストコンクリート)

1 愛媛県土木工事共通仕様書 第1編 共通編 第3章無筋・鉄筋コンクリート 第3節 レディーミクストコンクリート 1-3-3-2工場の選定において追加するレディーミクストコンクリートは、次表のとおりとする。ただし、構造物、目的物の種類により変更する場合は、監督員の承諾を得なければならない。

種別	粗骨材の最大寸法	スランプ	水セメント比	空気量	呼び強度	摘要
無筋コンクリート	40 mm以下	8 cm	60%以下	4.5% ±1.5%	18N/mm ² 以上	普通ポルトランド 又は高炉セメント (B種)
無筋コンクリート	20or25 mm	8 cm	60%以下	4.5% ±1.5%	18N/mm ² 以上	普通ポルトランド 又は高炉セメント (B種)
鉄筋コンクリート	20or25 mm	8 cm	55%以下	4.5% ±1.5%	24N/mm ² 以上	普通ポルトランド 又は高炉セメント (B種)

2 水セメント比は、一般の環境条件の場合、鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下とすること。

3 単位水量の上限値は、土木構造物の場合、粗骨材の最大寸法が 20 mm～25 mmの場合は、175 kg/m³ とし、粗骨材の最大寸法が 40 mmの場合は、165kg/m³ とする。

(単位水量測定)

4 受注者は、コンクリート種別ごとの1日当たりの使用量が 100m³ 以上施工する現場または重要なコンクリート構造物の施工では、打ち込み直前のレディーミクストコンクリートの単位水量を測定し、受け入れ判定を行い、測定結果を監督員に提出すること。

(テストハンマーによる強度推定調査)

5 重要なコンクリート構造物の適正な施工を確認するため、コンクリート構造物の施工完了後に、テストハンマーによる材齢28日強度の強度推定調査を材齢28日から91日の間に実施し、調査結果を監督員に提出すること。

(原位置のコア採取及び圧縮強度試験)

6 テストハンマーによる強度推定調査の結果が、所定の強度が得られない場合については、原位置のコアを採取し、圧縮強度試験を実施し、調査結果を監督員に提出すること。

(ひび割れ発生状況調査)

7 工事完成後の維持管理にあたっての基礎資料とするため、重要構造物についてはひび割れ発生状況の調査を実施し、調査結果を監督員に提出すること。

(スペーサー)

8 鉄筋のかぶりを確保するため、スペーサーを設置するものとする。スペーサーは、構造物の側面については原則1㎡につき2個以上、構造物の底面については原則1㎡に4個以上設置すること。

(施工計画書)

9 施工計画書のコンクリート打設計画は、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期を明記し、これに基づき打設作業を行わなければならない。

(土木コンクリート構造物の品質管理試験)

10 上記項目4、5、6、7の品質確認方法は、「土木コンクリート構造物の品質管理試験」を松山市公営企業局のホームページから入手し、監督員と協議を行い実施するものとする。